

SABO NEWS LETTER

頁 1

創刊号 【発行日】： 1998年 9月 1日 【発行】(社)全国治水砂防協会

全国治水砂防協会
会員の皆様へ

会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
日頃から、砂防関係事業の発展のため種々ご指導、ご尽力いただいておりますこと
衷心より御礼申し上げます。

今年の天候は不順で、各地で大きな土砂災害が発生しています。被害を受けられ
ました会員の皆様に心からお見舞い申し上げます。

さてこの度、砂防協会では建設省砂防部のご指導ご協力により、砂防を取り巻く
諸情報や砂防協会からのお知らせなどを、迅速かつ的確に皆様にお届けするため、
そして皆様からのご意見、ご示唆をいただくために

「SABO NEWS LETTER」

を隔週でお送りすることになりました。 ご活用いただきたく存じます。

砂防協会も砂防関係事業の発展のため、そして安全で活力ある地域づくりにお役
にたてる諸活動を行っておりますが、これからも会員の皆様のためを第一義として
さらに充実した事業を心掛けていきたいと思っています。

どうかよろしく願い申し上げます。

創刊号をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

1998年 9月 1日

社団法人 全国治水砂防協会
常務理事 大久保 駿

SABO NEWS LETTER

創刊号 【発行日】：平成10年9月1日（火） 【発行】（社）全国治水砂防協会

全国の市町村長さん。今日は、砂防部長の池谷です。
 いつも砂防関係事業に特段の御理解と御協力をいただき誠に
 ありがとうございます。
 21世紀を目前にして、皆様の地域は街づくりや地域活性化等に
 全力を挙げておられる事々思っています。しかし、皆様が頑張って作り上げた
 すばらしい街が、1回の豪雨に丁度土砂流で破壊されたり、住民
 の人命が失われるようでは本当に残念です。永年「史」をもつ
 それぞれの地域が、自然と共に生き、それぞれの文化や伝統を
 継承しつづから、また来世に完全に豊かな地域とするためには
 今、何をなすべきでしょうか。

私達砂防関係者も皆、皆さんと一緒にこのための努力をしております。
 この様な状況の下、今般砂防協会の御協力を得て、本誌を
 隔週に発行し、砂防の最新情報を提供することに努めています。
 ぜひ御一読いただき、ぜひ御意見をいただければ幸いです。

創刊号とする本号には、最近の災害の事
 を主にイベント情報も載せております。市町村長さんへ情報も共有
 して、地域のための砂防事業に活用していただきたいと思っております。

どうかよろしくお願いいたします。

通信:

SABO NEWS LETTER 創刊号の頭書まで終之に
て3で 8月26日からの東日本・北日本の家用災害が発生
しました。

被害を受けた以下 茂野村長さんには心からお見舞
申しあげます。また 土研災害で亡くなられた方々に
心から御冥福をお祈りにいたします。

台風4号も早く 東方に去ります。雨がやんで
一日も早く 復旧と復興がなされることを願っております。

私達 土研部取組一同、地域の復旧と復興に
全力で取り組むこととしておりますので、何卒と御
厚望。御注文下さい。

此致と御見舞い。

建設省 土研部長

池谷 浩

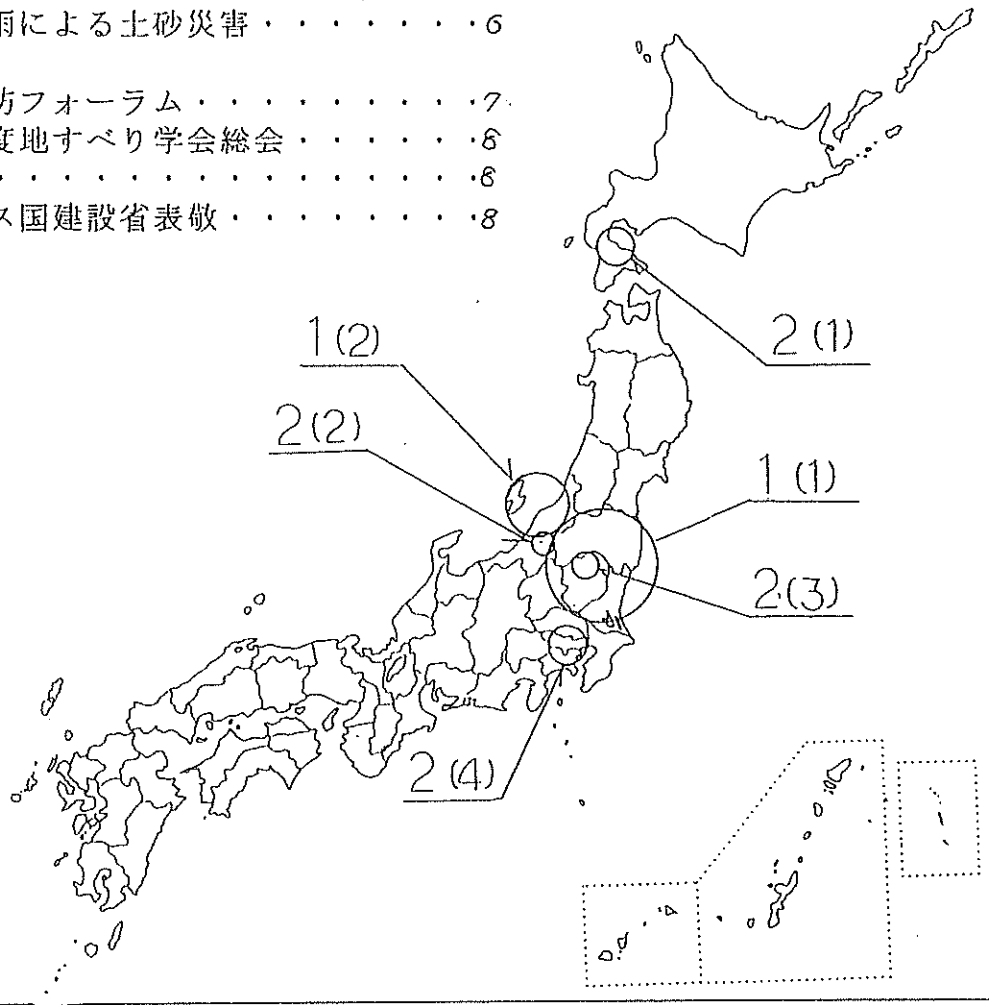
MENU

1. 土砂災害速報

- (1) 8月26日からの豪雨による土砂災害・・・5
- (2) 新潟集中豪雨による土砂災害・・・6

2. 砂防トピックス

- (1) 98火山砂防フォーラム・・・7
- (2) 平成10年度地すべり学会総会・・・8
- (3) 日光砂防祭・・・8
- (3) ホンジュラス国建設省表敬・・・8



当面の行事予定

- 9月2日(水)～3日(木) 東海地区直轄事務所長・砂防課長会議 (三重県鳥羽市)
- 9月3日(木) : 長畑砂防ダム定礎式 (長野県八坂村)
- 9月9日(水) : (社)全国治水砂防協会理事・顧問懇談会 (砂防会館)
- 9月11日(金) : 雪崩防災週間実行委員会 (砂防会館)
- 〃 : 山形県砂防協会創立50周年記念事業座談会 (山形県山形市)

平成10年8月31日

8月26日からの豪雨による土砂災害について

1. 降雨状況（建設省観測地：福島県「真船」）
 最大時間雨量：90mm（26日17：00～18：00）
 連続雨量：1248mm（26日1：00～）

2. 土砂災害発生状況

【総括表】

	発生件数	人的被害		建物被害		
		死者	負傷者	全壊	半壊	一部破損
土石流	10件	5名	1名	1棟	2棟	—
地すべり	2件	—	—	—	—	—
がけ崩れ	94件	4名	13名	6棟	7棟	22棟
合計	106件	9名	14名	7棟	9棟	22棟

【主な土砂災害】

○福島県西郷村真船の土石流

知的障害者施設「太陽の国、からまつ荘」で死者5名、重傷者1名

○群馬県水上町土合の土砂災害

JR上越線土合駅構内（清水トンネル手前付近）へ土石流による土砂流出（推定土砂量3,000m³）があり、ホームが埋没。JRは現在も不通。

○福島県西郷村、大信村、岩代町等のがけ崩れ

がけ崩れにより、死者4名、負傷者7名

(1) 福島県内

1) 発生件数 : 34件（土石流1件、がけ33件）

2) 人的被害 : 死者9名、負傷者8名

福島県西白河郡西郷村真船地区において、障害者施設「太陽の国 からまつ荘」が土石流により被災し5名が亡くなるなど、4箇所において計9名が亡くなった。

3) 建物被害 : 全壊6戸、半壊6戸、一部破損4戸

(2) その他の県

16県で計72件の土砂災害が発生

（北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、栃木県、群馬県、埼玉県、神奈川県、山梨県、新潟県、富山県、石川県、静岡県、兵庫県）

1) 発生件数 : 72件（土石流9件、地すべり2件、がけ61件）

2) 人的被害 : 負傷者6名（栃木県那須町、静岡県裾野市、同県韭山町：全てがけ崩れ）

3) 建物被害 : 全壊1戸、半壊3戸、一部破損18戸

3. その他

- ・砂防部内に「福島県南部土砂災害対策本部（本部長：砂防部長）」を、8月27日7時に設置。
- ・傾斜地保全課高橋特定斜面整備対策官、土木研究所吉松砂防部長、綱木地すべり研究室長、砂防研究室山田主任研究員を福島県に派遣（27日）。
- ・建設大臣の災害状況視察に砂防部長、傾斜地保全課長が随行（28日）
- ・土木研究所南砂防研究室長等を栃木県に派遣（28日）

梅雨前線大暴れ

～新潟集中豪雨による被害状況について～

梅雨前線の活動が8月3日頃から活発となり、4日の日中にかけて新潟県を中心に大雨となり、新潟、福島、富山で死者1名、負傷者2名、家屋全壊3戸などの被害が発生した（下表参照）。もっとも被害の大きかった新潟県では、総雨量は多いところで300ミリを超え、河川の氾濫、土砂災害等により甚大な被害をもたらした。

土砂災害については総雨量が特に大きかった佐渡、新潟市、笹神村等で多く発生しており、両津市では土砂崩れにより集落が孤立したため、自衛隊の派遣を要請し、また新潟市及び笹神村では災害救助法が適用された。

佐渡において、人家等の建物被害があったにも関わらず人的被害が発生しなかった理由は、住民等が自主的に、避難を行ったことによる（東立島、達者地区等）。

また、砂防ダムが整備されていたことにより、被害を最小限に食い止めた例（笹神村安野川等）もあった。

効を奏した早めの避難

達者地区

達者地区住民から、落石があったと土木事務所に連絡があり、事務所職員が現地調査に現場に行ったところ（9時半頃）、他にも崩壊の危険があること、さらに達者川も土砂含みの流水が溢水していたため、危険を感じ事務所に連絡。事務所長が町長に状況を連絡したことから、町長が現地を確認し11時に避難勧告を出した。住民は地域防災計画で定められた金泉小学校へ、海岸沿いの町道を通って避難した。

東立島地区

8月4日朝からの猛烈な雨で、区長端野靖夫（はしのやすお）氏ががけ崩れ、土石流の危険を感じ、各戸を周り起床と危険を呼びかけた。（6時～7時頃）住民は自衛の水防活動をしていたが、7時頃には川が土砂とともに激しく増水してきたため、同氏は家屋を離れ避難するよう指示するとともに、非常事態を市役所に通報。直後の7時半頃がけ崩れが発生、人家2戸を押し潰した。一方、東立島川からは土砂があふれた。

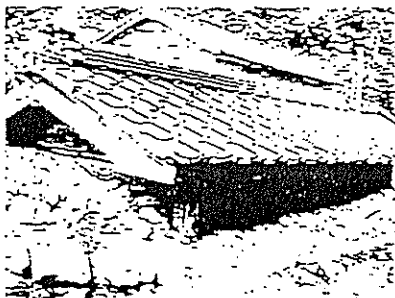
左岸側の住民は東強清水（ひがしこわしみず）集落へ、右岸側の住民は畑（あわび）集落へ避難した。佐渡一周線は、がけ崩れの危険があったが、道路の海岸側を避難経路とした。

8月6日、大臣視察における笹神村佐藤一字村長による説明（抜粋要約）

ここは昭和42年で犠牲者の出たところですが、その後、砂防ダムが入り今回は土石流を防げました。砂防ダムがないところは、今回の大災害で被害を受け、どうしても砂防ダムがほしいという思いがあります。



東立島地区(両津市)におけるがけ崩れ
(全壊2戸)



東立島川(両津市)における人家被災状況



東立島川(両津市)における人家被災状況

’ 98火山砂防フォーラムが北海道駒ヶ岳で約700名の参加を得て盛大に開催された。また幹事会は、来年10月にフィリピンで開催することを決定！

’ 98火山砂防フォーラム開催について

1. 開催日：平成10年8月27日（木）、28日（金）
2. 開催場所：北海道駒ヶ岳（北海道亀田郡七飯町）
3. 主催：火山砂防フォーラム委員会（全国の火山周辺にある市町村長からなる組織）
4. 後援：建設省、国土庁、北海道開発庁、北海道、（社）全国治水砂防協会、（社）砂防学会、（財）砂防・地すべり技術センター、（財）砂防フロンティア整備推進機構
5. 協力：函館海洋气象台、陸上自衛隊第28普通科連隊、海上自衛隊函館基地隊、渡島保健所、北海道警察函館方面本部、南渡島消防事務組合、渡島東部消防事務組合、森町消防本部、北海道旅客鉄道、（株）函館支社、日本放送協会函館放送局、北海道電力（株）函館支店、駒ヶ岳火山防災協議会
6. 参加人数：約720名
7. プログラム
8月27日（木）
 - ・特別講演 「有珠山噴火災害と復興の経緯」 壮督町長 菅原 俊一
 - ・ワークショップ 総合司会 伊藤和明 NHK解説委員／文教大学教授
 - 話題1) 「北海道駒ヶ岳を知る」
ゲスト：大沼観光協会会長、観光ホテル支配人
 - 話題2) 「火山災害の恐ろしさを知る」
ゲスト：駒ヶ岳火山災害を体験した地元居住者
 - 話題3) 「火山防災対策について」
ゲスト：地元消防署長、駒ヶ岳火山防災会議評議会他
 - 話題4) 「北海道駒ヶ岳に託す夢」
「北海道駒ヶ岳に託す夢」作品応募者10名
 - ・火山砂防フォーラム宣言 森町長 湊 美喜夫
- 8月28日（金）
 - ・現地視察

平成10年度地すべり学会総会・第37回研究発表会 及び現地見学会が新潟県長岡市で開催される。

平成10年度の地すべり学会総会と第37回研究発表会及び現地見学会が、8月25日～27日にかけて、全国から1,039名の地すべり関係者が新潟県長岡市の「ハイブ長岡」及び「長岡リリックホール」に集い開催された。

丁度新潟県地方を中心とした「8・4水害」の直後での大会となったが、新潟県は、文字どおり地すべりの多発県であり、過去幾多の大きな地すべり災害を経験している地すべり防止技術の先進県での大会だけに、会場は熱気に包まれていた。

第1日目は、平成10年度地すべり学会の総会の後、平成9年度の地すべり学会論文賞を受賞した千葉大学教授（地すべり学会会長）古谷尊彦氏の「ランドスライドー地すべり災害の諸相」と題する学術講演がおこなわれ、その後4つの会場に別れて研究発表が行われた。

第2日目は、前日に引き続き研究発表、ポスターセッション、機器展示が行われ、研究発表件数は141件にも及んだ。

第3日目は、3つのコースに別れて建設省（西名地すべり）、林野庁（八幡地すべり）、構造改善局（蓮野地すべり）のそれぞれの所管の地すべり防止工事の現地見学が行われた。

「砂防なければ日光なし」 日光砂防祭挙行さる

さる8月21日、今年で26回目の日光砂防祭が挙行されました。

ここ日光は国際的な観光地として有名なところで、日光東照宮や華厳の滝などの景勝を目当てに年間約650万人に上る観光客が訪れます。しかし、美しい自然に囲まれているということは必然的に災害も起こりやすく、有史以来度重なる土砂災害を受けており、犠牲者も相当数に達しています。

特に明治35年や大正3年の災害は凄惨を極め、ついに大正7年県営事業から国直轄事業に移管され、以来80年間にわたって砂防事業を実施してまいりました。現在、砂防事業の効果により、日光市は水と緑豊かな安全な地域に生まれ変わりつつあります。

以上のような経緯を踏まえ、昭和48年、時の日光市長 佐々木耕郎氏が犠牲者を慰霊するとともに、砂防事業の一層の推進を祈念して、直轄砂防事業最初の工事着手の日（大正7年8月21日）に砂防祭を開催されて、以降毎年実施されております。

故佐々木市長は標題の「砂防なければ日光なし」として熱心に砂防事業の実施に取り組みましたその功績を称え、大谷川のほとりの砂防塔を建てられ、砂防祭もこの塔の前で実施されています。

今年も本省砂防課長をはじめ、関東地方建設局長、栃木県土木部技監、砂防協会常務理事ほか多数の方のご臨席のもと、日光二荒山神社の神主により粛々として進められ、盛会裡に終わりました。（関東地建）

ホンジュラス国政府公共事業運輸住宅大臣等が 河川局長、砂防部長を表敬されました。

表敬日：平成10年8月28日（金） 16：00～

表敬者：ホンジュラス国政府

公共事業運輸大臣 Tomas Lozano Reyes

公共事業局長 Heriberto Wong Canals

ホ国公共事業運輸大臣は、砂防長期専門家の永年の努力の結果、工事着手にこぎつけた、チヨロマ工期工事（無償資金協力）の契約のため来日された。